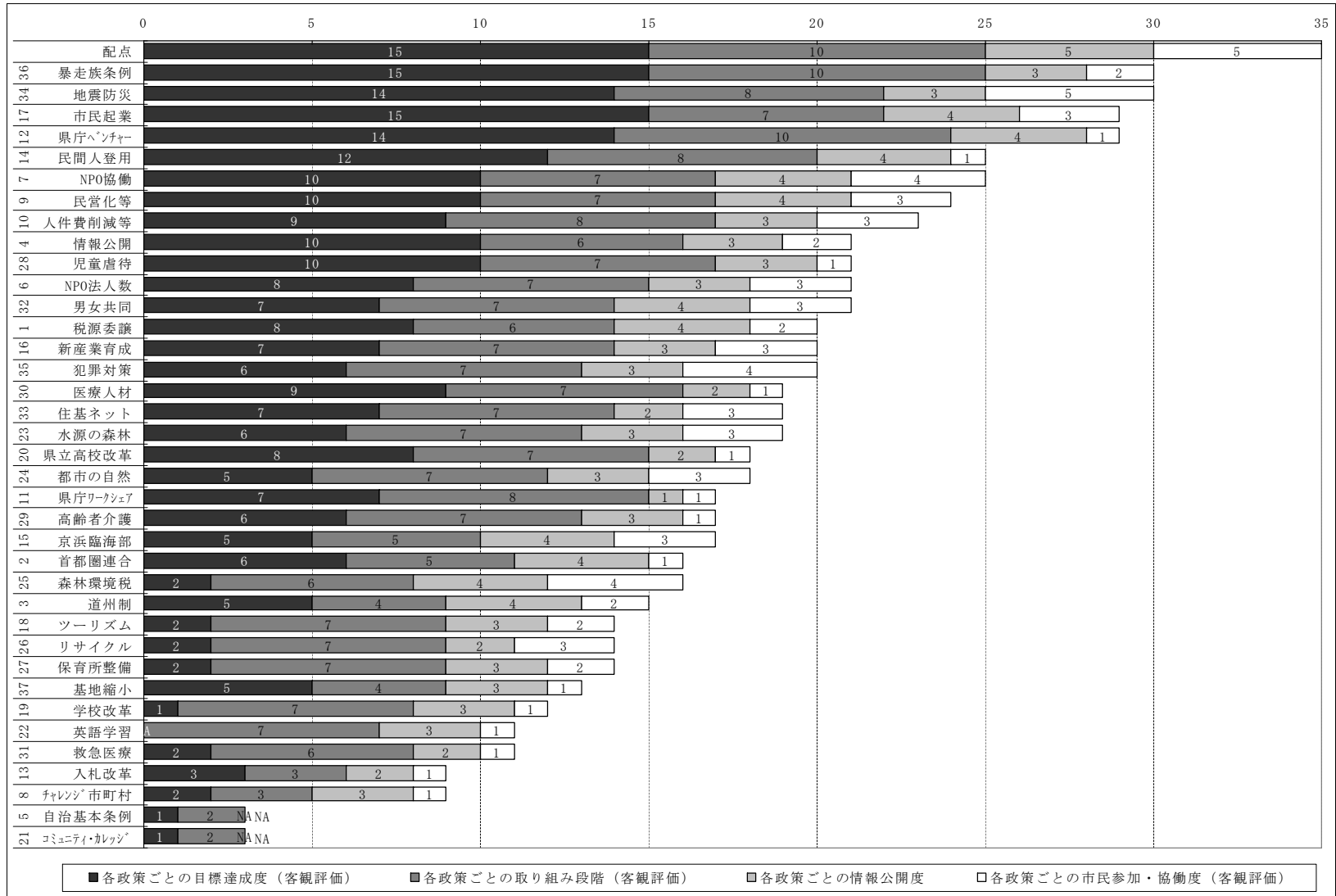


⑥進展度順（平成 16 年度）

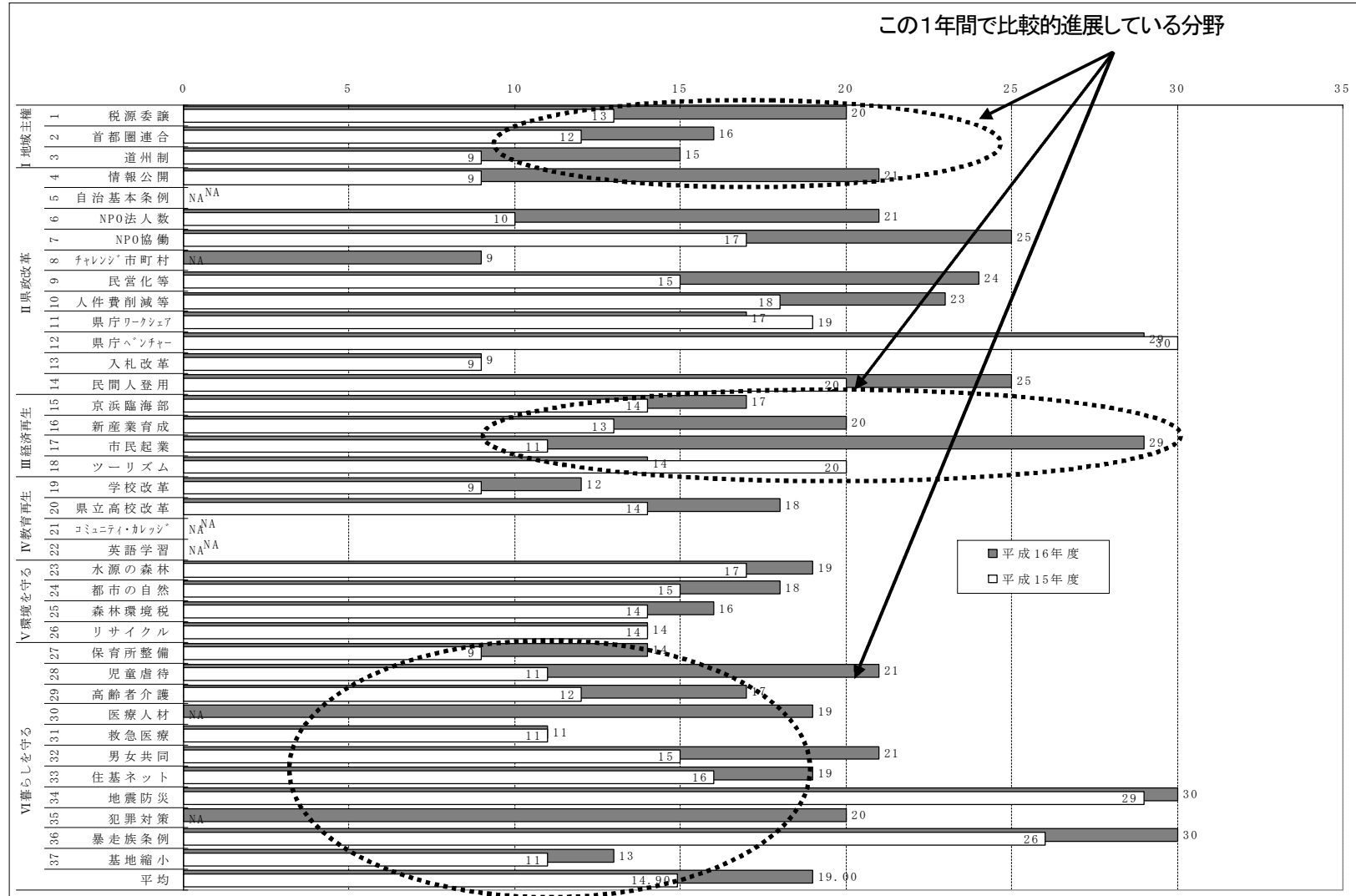
政策別評価結果（平成 16 年度）に基づき、進展度順にしたものが下記のグラフである。



注5) 評価のグラフ化当たっては、NA項目をノーカウントとしてグラフ化している。

⑦政策領域別進展度

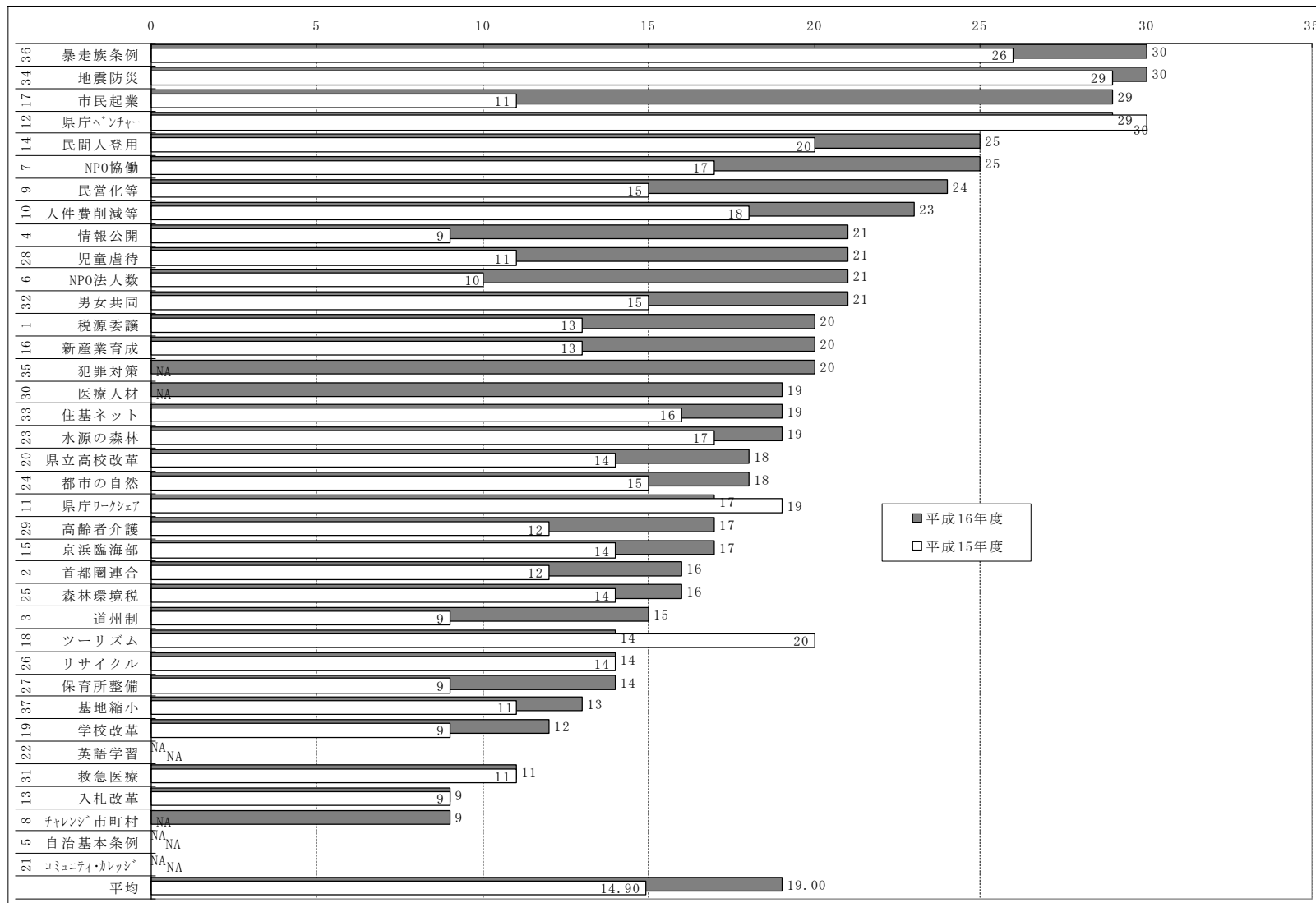
平成15年度との比較では「Ⅰ 地域主権」「Ⅲ 経済再生」「Ⅵ 暮らしを守る」の領域で伸びが見られる。これらの領域では、初年度（平成15年度）で体制が整えられ、その体制を基盤に平成16年度では政策の本格的な推進が図られていることがうかがえる。



注4) 評価のグラフ化当たっては、NA項目をノーカウントとしてグラフ化している。

⑧進展度順（平成16年・15年度比較）

進展度順（平成16年度）に、平成15年度評価結果と対比したものが下記のグラフである。



注6) 評価のグラフ化当たっては、NA項目をノーカウントとしてグラフ化している。

(7) マニフェストのタイプ（平成15年度評価実施）【再掲】

① タイプ分けを行った趣旨

2003年1月、北川正恭三重県知事（当時）により、日本においてマニフェストが提唱されてからまだ日も浅く、マニフェストは模索・開発の段階にあり、必ずしも定形があるわけではない。その意味で、それぞれのマニフェストに関して評価を行うに際して、その具体的中身や進捗を評価するだけでなく、それぞれのマニフェストの持っている基本的性格をマクロ的な視点から位置づけることによって、よりの確な評価に資することができるのではないかと考えから、いくつかの分類の軸をあげ、マニフェストの性格付けを試みた。

マニフェストの政策それ自体は候補者が主体的判断により提起し、それを市民・有権者自身が判断すべきものとして、ここでの分類の対象とはしていない。

今回のタイプ分けは、マニフェストの良し悪しを判定するものではなく、さまざまな形のマニフェストが存在しうることを示すとともに、有権者が候補者のマニフェストを見て、判断する際の要素のひとつとして、提起を試みたものである。この分類の軸自体に関しても、別の切り口もあり、ひとつの試案として提出したもので、今後さらに改善をする必要があると考えている。

② 松沢成文神奈川県知事のマニフェストのタイプ

マニフェストのタイプ	判 定
1・戦略性(課題対応型)と総合性(網羅型)のいずれを重視しているか・・・一般と特殊	戦略性重視
2・ビジョン性(長期展望型)と実現性(短期決戦型)・・・時間軸	全体として実現性にシフトしていると判定するが、ビジョン性ありとの意見もあった。
3・バランス性(普遍性)と地域特性重視(ローカル性)・・・空間性	ローカル性が強い
4・市民提案の受容性の強弱(官治型と自治型、市民自治の視点の有無)	受容性はどちらかというと弱い
5・分権型か集権型か(分権への志向性が表れているか)	分権型
6・実現可能性(既存事業踏襲型)とチャレンジ性(新規事業重視型)	チャレンジ性がある
7・話題性重視型(ポピュリズム)と着実型(テーマの深掘り)	どちらかというと話題重視型、どちらかというと着実型と判定が分かれた。
8・県、市町村などの自治体の性格に合わせた課題の的確性	的確性がある。平均的との意見もあり。
・出身母体	衆議院議員
・準備期間の長短	短かった
・直営型か支援型か	両方の要素がある
・財政再建重視の度合い	やや弱いように見える
・開発重視型と生活福祉型(産業発展指向からの転換の意識がどの程度表れているか)	両面の要素がある